

みどりのこえ

春号
2009

長野県環境保全研究所

平成21年(2009年)3月31日発行

●飯綱庁舎 〒381-0075長野市北郷2054-120 TEL.026-239-1031 FAX.026-239-2929

●安茂里庁舎 〒380-0944長野市安茂里米村1978 TEL.026-227-0354 FAX.026-224-3415

URL:<http://www.pref.nagano.jp/xseikan/khozen> E-mail:kanken-shizen@pref.nagano.jp

No.38



南信地域の水路に自生するバイカモ

信州発、ほんとうの豊かさ

文・写真 大窪久美子

一雨ごとに樹々の芽が膨らみはじめ、我が家の庭でもフキノトウやツクシ、ノビルが顔をのぞかせ、春の訪れを告げてくれる。「見てみてノビルが出てよ!」毎年、一番はじめに気がつくのは小学生の娘である。通学路には田んぼがあり、彼女らは春には畔の草むらからヤマカガシやシマヘビが飛び出してくるのを蹴ったりしているらしい。数軒先の水路では初夏には流水の中でバイカモが楚々と咲きみだれ、ホタルの舞をみることが出来る。その土手にワレモコウやユウガギクが咲き、山から降りてきたアキアカネやナツアカネが群れをなす頃には、もう行く夏を惜しむ季節となる。

2009年春、大不況ともいわれる厳しい経済状況。私たちにとっての「ほんとうの豊かさ」とは、何なのだろうか?自問する。しかし今、我が家からほんの数メートル圏内には「ほんとうの豊かさ」があふれている。私は思う。ただあまりにも身近であたり前で気づかれない生物たち。自然の営み、四季の移ろい。

長野県は日本列島の中央部に南北に長く位置し、気候条件や地形等の立地環境条件が多様であるため、高等植物だけでも2506種320亜・変種(長野県植物誌)が自生する。これは日本列島全体の植物相の約40%にもおよび、信州は植物種の多様性が特に高い地域である。ただわたしたちはあまりに近くにある自然を知らない。気づかない。それにまた、里地や山里にある「自然の豊かさ」を支えていたのは人々の生活の営みであった。「人と自然との関係」が変化すれば、失われる自然もある。自問する。「ほんとうの豊かさ」とは「自然とかかわろうとする」人の心のあり方ではなからうか?

折しも2010年秋にはCOP10(生物多様性条約締結国際会議)が愛知県名古屋市で開催される。この問題に対して日本は東アジアの経済大国としていかにイニシアチブが取れるのだろうか?私たち、信州からは何が発信できるだろうか?

(おおくぼ くみこ/信州大学農学部森林科学科准教授)

Contents

【巻頭言】信州発、ほんとうの豊かさ	1	【こんなことやってるよ!】活動紹介 NPO法人信州いわなの学校	10
【特集】公開セミナー『変わりゆく信州の自然』から	2	【読書案内】『親が子供に伝えたい「環境」の授業-命はつながっている』	10
【特集】地球温暖化と信州	3	【フィールドノートから】ニセアカシアの駆除と利用をめぐる	11
【特集】広がる外来生物	4	お知らせ・「よもくまくん」	12
【特集】里山のこれから~歴史から考える~	6		
【特集】希少野生動植物の保全	8		